

授業科目等の概要

| (教育・社会福祉専門課程保育科) 平成30年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|------|------|--------------|--|---------|------|-----|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | キリスト教概論 | キリスト教及び聖書の基本知識を習得する。これにより、学園の建学の精神であるキリスト教に基づく「愛と奉仕」を深く理解する。 | 1通 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | | 法学（日本国憲法） | 日本国憲法の基本的な考え方（基本的人権の尊重・国民主権・平和主義）及び近代市民法システムの特徴を学び、現代日本の法をめぐる主要な課題を理解する。 | 1後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 体育理論 | ヒトの形態・機能・体力の変化と、運動とのかかわりを理解する。乳幼児期から思春期までの発育発達について、体力特製の加齢変化、運動指導の実例等から子ども達の成長という現象を多角的に捉えられる目を培う。 | 1後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 体育実技 | ジャグリング、バランスボール、短・長なわを用いた運動を通して「できない」が「できる」ようになっていく過程を経験し、指導者としての重要な資質を形成する。 | 2前 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 外国語コミュニケーション | 童謡・日常及び学校生活の英語リスニング・会話・文法等を通して、保育現場で使う英語表現とコミュニケーション力を身につける。 | 1通 | 60 | 2 | | | ○ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 情報機器演習 | 保育素材等を用い、Word・Excel・PowerPointの基本的な操作を学ぶ。又情報機器の保育・教育場面への応用技術も身につける。 | 1通 | 60 | 2 | | | ○ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 身体表現 | ごっこ遊び・運動遊び・リズム遊び等様々な身体表現をとおして、子どもたちが面白いと感じる運動遊びや表現活動を引き出すことを目指す。子どもたちの発育発達状況に応じた運動遊びの選択・環境設定・指導と援助の実践的方法を学ぶ。 | 1通 | 60 | 2 | | | ○ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 音楽表現ⅠA | 楽譜を読むために覚えておかななくてはならない様々な規則を、実技も交えながら学ぶ。リズム打ちや弾き歌い等も含まれる。 | 1前 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 音楽表現ⅠB | 保育現場において必要とされる生活のうた・季節毎のうた・手遊び・讃美歌等を弾き歌いするための発声法、歌唱法を学ぶ。 | 1後 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | | | ○ | |
| | ○ | | 音楽表現Ⅱ | 各自が授業に向けて練習してきたものを教員が個人指導する事により、保育現場で必要とされるピアノの基礎技術、童謡伴奏および弾き歌いを学ぶ。暗譜・マーチ・人前で発表する等、実習及び保育現場ですぐに使える実力を身につける。 | 1通 | 60 | 2 | | | ○ | ○ | | | ○ | |
| | ○ | | 音楽表現Ⅲ | 音楽Ⅰ・音楽Ⅱを基礎とし、実習や就職試験につながる実践的なピアノ演奏および弾き歌いの技術を身につける。ピアノ・歌ともにレパートリーを増やす。 | 2前 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | | | ○ | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----------|--|--------|----|---|---|---|--|---|---|---|---|
| ○ | | 教育心理学 | 教育心理学とは何か、基本的な事項について理解をはかり、こどもの発達に則した対応をするための知識の獲得と、子育て支援に関する基礎的能力を養う。 | 1 後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | ○ | | |
| ○ | | 発達心理学 | 人間の一生の変化の過程の中で最も重要な乳幼児期を理解するために、発達心理学の基礎的知識の習得と保育現場における子どもを理解する。 | 1 前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | |
| ○ | | 保育実践の心理学 | 出生前期から老年期までのあり様について学び、保育の現場で出会う子どもや家族をはじめとする子どもに関わる人々を理解し、支援するための視点を広げる。 | 2 後 | 30 | 1 | | ○ | | ○ | | | ○ |
| ○ | | 子どもの保健Ⅰ | 小児の心身を医学的に学び、子どもの病気とその対応・予防法について理解する。また保育実践における保健活動の重要性を理解する。 | 1 通 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | | ○ |
| ○ | | 子どもの保健Ⅱ | 乳幼児期の成長発達はその一生に影響を及ぼすことが多い。子どもの保健の実践を実習を通して保育者として必要な知識と技術を習得する。 | 1 前 | 30 | 1 | | ○ | | ○ | | | ○ |
| ○ | | 子どもの食と栄養Ⅰ | 子どもの栄養の特徴と食生活の意義を理解する。栄養の基礎的知識と小児栄養の実践を学び、保育者として食生活と生活全般、食育の望ましい形を理解する。 | 2 前 | 30 | 1 | | ○ | | ○ | | | ○ |
| ○ | | 子どもの食と栄養Ⅱ | 子どもの発達に伴う栄養の特徴を理解し、乳幼児期から思春期までと特別な配慮を必要とする事例についても対応できる力をつける。 | 2 後 | 30 | 1 | | ○ | | ○ | | | ○ |
| ○ | | 家庭支援論 | 家庭・家族をとりまく社会的状況を理解し、適切な相談支援を行うためのさまざまな支援体制と展開、関係機関との連携について学ぶ。 | 2 前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ |
| | ○ | 臨床心理学 | 悩みや困難を抱える人の心を理解して支えることの実践を学ぶ。どのような現場があるのか、どのような方法で評価するのか、どのような支援を創り出してきたのかを学び、人を理解するセンスを養う。 | 2 通 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | | ○ |
| | ○ | 生涯学習論 | 生涯学習の意義・目的、基礎的概念・理論、歴史・制度について学ぶことで体系的な知識を習得し、保育者としての専門性を高める。 | 1 後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ |
| ○ | | 保育・教育課程論 | 「保育所の保育の計画」「幼稚園の教育課程・指導計画」と評価の基本、子どもの発達と指導計画、指導計画の実際の作成と展開についての手順を具体的に学び、身につける。 | 1 後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ |
| ○ | | 保育指導法総論 | 幼稚園と保育所における保育の内容を、具体的な事例を通してディスカッションやグループワークから子どもにとっての保育の在り方を総合的に学ぶ。 | 1 前 | 30 | 1 | | ○ | | ○ | | | ○ |
| ○ | | 健康指導法 | 幼児期は生涯にわたって健康的な生活をおくる基礎となる習慣を身につける重要な時期。現代の子供たちを取り巻く社会的環境、生活環境を理解し、子どもの健康をめぐる諸問題について考える。 | 2 通 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | | ○ |
| ○ | | 人間関係指導法 | 「遊ぶ仲間」「遊ぶ場」「遊ぶ時間」が確保されている保育の場において、子ども達が対等な仲間の中で多様な経験をし、自分らしさを育むために、保育者はどのような視点を持ち配慮を行うべきか、具体的な事例を取り上げグループワークによって考える。 | 2 後 | 30 | 1 | | ○ | | ○ | | | ○ |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|--------------|---|----|-----|---|--|---|---|---|--|--|--|--|--|--|--|---|
| ○ | | 環境指導法 | 子どもの身近な環境に関する領域の指導法として、保育者として幼児を取り巻く環境の教育的意義および環境の知識を活用した遊びなどの実践力を身につける。 | 1通 | 60 | 2 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| ○ | | 言葉指導法 | 子ども達の発達に沿った言語獲得のありようを学ぶ。グループワークやプレゼンテーションも取り入れながら、乳幼児期の発達とことばについて、ことばを育てる保育者の役割、保護者対応とことば等、ことばの持つ力を理解する。 | 2通 | 60 | 2 | | ○ | ○ | | | | | | | | | ○ |
| ○ | | 表現指導法 I A | 子どもの表現活動への援助や環境について学ぶ。はさみ・絵の具・素材を使った表現活動、手作り教材の製作、12か月環境の整理ノートの製作等を通して感性の育ちや「感じて、考えて、行動する」表現の営みの意義を知る。 | 1前 | 30 | 1 | | ○ | ○ | | | | | | | | | ○ |
| ○ | | 表現指導法 I B | 音楽と身体運動を用いての表現を学ぶ。リズムあそび・ボール遊び、スキップ・まねっこ遊び、手遊び等、身体運動の中にあるリズムを楽しむとともに、保育の全体の中での豊かな表現的環境づくりを考える。 | 1後 | 30 | 1 | | ○ | ○ | | | | | | | | | ○ |
| | | ○ 表現指導法 II | グループ・個人制作による視聴覚的教材を自作自演することを中心に、表現活動への理解を深める。実習に向けた教材の作成及び卒業制作。 | 2通 | 60 | 2 | | ○ | ○ | | | | | | | | | ○ |
| ○ | | 教育相談論 | 子どもの発達理解と相談支援、保護者への対応、発達障害や気になる子どもと保護者への関わり、保育現場でのカウンセリング技法等、事例学習や研究発表を中心に保育・教育相談の基礎を身につける。 | 2通 | 60 | 2 | | ○ | ○ | | | | | | | | | ○ |
| ○ | | 乳児保育 | 0, 1, 2歳児の発達過程と低年齢児保育の基本的留意事項や保育技術、乳児保育の実際と記録・計画、さらに子育て支援における保育者の対応と課題についても学ぶ。 | 1通 | 60 | 2 | | ○ | ○ | | | | | | | | | ○ |
| ○ | | 障害児保育 | 障害児保育を支える理念、歴史的変遷を学ぶ。障害の理解と保育における発達の援助の方法、家庭および関係機関との連携、障害児保育にかかわる現状と課題を考える。 | 2通 | 60 | 2 | | ○ | ○ | | | | | | | | | ○ |
| ○ | | 社会的養護内容 | 各自の実習体験を土台として、援助者としての問題解決能力やスキルを高めていく。施設養護・家庭的養護の特性及び実践、児童虐待の実態と事例検討、日常生活支援・治療的支援、自立支援の実際、保育士の倫理及び責務等の学びからこどもの権利擁護の視点での児童観や施設養護観を明確にする。 | 2前 | 30 | 1 | | ○ | ○ | | | | | | | | | ○ |
| ○ | | 保育・福祉相談援助 II | 社会福祉援助技術の「価値」「知識」「技術」について身に付け、生命の意味や児童虐待について考えていく。対象理解の方法を事例研究をとおして学ぶ。 | 2後 | 30 | 1 | | ○ | ○ | | | | | | | | | ○ |
| | | ○ 生活文化 | 子どもの生活を、食事・衣生活実態・住居の歴史と消費生活の各側面から学ぶ。作って食べるこの意味や食事のマナー、生活に必要な家事技術、更に日本の行事まで広く考える。 | 2後 | 30 | 1 | | ○ | ○ | | | | | | | | | ○ |
| ○ | | 教育実習指導 | 幼稚園実習での学びを深めるために、事前準備と事後学習を行う。実習の意義・目的・内容・段階の理解、幼稚園の制度と教育基本等の基礎理論をベースとし、保育実技・実習日誌・指導案と併せて体系化を目指す。 | 1通 | 45 | 1 | | | ○ | ○ | | | | | | | | ○ |
| ○ | | 教育実習 | 24日間を春期と秋期の2期に分けて実施する。春期は観察実習・参加実習を中心に指導実習を行う。秋期は参加実習・指導実習を中心に進められる。保育の計画立案から準備、実践のすべてを体験的に学び、実習期間を通じて毎日実習日誌をつける。 | 2前 | 180 | 4 | | | ○ | ○ | | | | | | | | ○ |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|-----------|--|------|-----------|---|--|---|---|---|---|--|--|--|--|--|--|--|-------|
| ○ | | 保育実習指導Ⅰ | 保育所実習・施設実習についての事前事後学習を行う。保育実習の意義・目的・内容・方法、保育所・施設の理解、保育技術の習得、実習日誌の記録の書き方と保育計画の立案方法等の知識・技術を身に付け、学習内容・課題を明確化するとともに実習体験を深化させる。 | 1通 | 60 | 2 | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | |
| ○ | | 保育実習Ⅰ-保育所 | 1年次2月に12日間90時間以上の実習を行う。保育所の一日の流れを理解し、観察や実際の関わりをとおして乳幼児の発達を学ぶ。又生活及び遊びなど一部分を担当し、保育計画・指導計画・保育技術を習得する。職員間のチームワークや家庭・地域との連携、安全及び執病予防への配慮について理解する。実習期間を通じて毎日実習日誌をつける。 | 1後 | 90 | 2 | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | ○ |
| ○ | | 保育実習Ⅰ-施設 | 保育所以外の児童福祉施設等で実質90時間以上実施とする。養護の一日の流れを理解し、観察や関わりを通して利用者のニーズを理解する。又生活や援助など一部分を担当し、援助計画・養護技術を習得する。職員間のチームワークや家庭・地域との連携、安全及び疾病予防への配慮について理解する。実習期間を通じて毎日実習日誌をつける。 | 2前 | 90 | 2 | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | ○ |
| | ○ | 保育実習指導Ⅱ | 保育実習Ⅱの為の事前事後学習である。保育実習Ⅰ・施設実習の振り返りをし、指導案の理解・作成・実践を学ぶ。又保育の観察と記録の取り方、記録の考察の仕方、記録による子ども理解、保護者の役割理解等保育者になるための実践力を修得する。 | 2通 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| | ○ | 保育実習Ⅱ | 2年次8月下旬から9月上旬に実質12日間90時間以上の実習を行う。Ⅱ期では、参加実習・責任実習を行うが、その段階においては実習園の状況による。Ⅰ期で習得したことを踏まえ、保育士として必要な資質・能力・技術の更なる向上を目指す。実習期間を通じて毎日実習日誌をつける。 | 2前 | 90 | 2 | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | ○ |
| | ○ | 保育・教職実践演習 | 講義を中心に、グループワークやロールプレイングなどを用いて授業をすすめる。実習での体験を基に、乳幼児に対する理解や関わりのある方、保護者との関係の構築方法、乳幼児や保護者に対する責任とは何か等保育の場で実践にどのように結びつけたらよいかを考える。又保育実践力を高めるための技術向上を図り、幼稚園や保育所が抱えている課題とその解決方法等についても考える。 | 2後 | 60 | 2 | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| 合計 | | | | 58科目 | 2565単位時間(| | | | | | | | | | | | | | 98単位) |

| 卒業要件及び履修方法 | | 授業期間等 | |
|--|----------|-------|--|
| (卒業要件) 2年以上在学し、学則第15条により課程終了の認定を受けた者 (履修方法) 2年以上在学し、教育職員免許法及び児童福祉法の規定により、学則別表1の授業科目を履修する。 | 1学年の学期区分 | 2期 | |
| | 1学期の授業期間 | 22週 | |

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。